

令和6年度 学校関係者評価会議結果

I. 令和6年度 学校関係者評価会議

1. 日時 令和7年3月19日(水) 15:00～16:00
2. 場所 長島愛生園総合診療棟 中会議室
3. 出席者

1) 学校関係者評価会議評価委員 4名

所属	種別	任期
国立療養所長島愛生園 看護部長	園内講師	2024.4.1～2026.3.31
国立療養所長島愛生園 看護師長	園内講師	2023.4.1～2025.3.31
国立療養所長島愛生園 看護師長	園内講師	2024.4.1～2026.3.31
瀬戸内市教育委員会教育委員 元中学校校長、元特任教授	外部講師	2023.4.1～2025.3.31

2) 学校関係者 6名

長島愛生園附属看護学校 学校長
長島愛生園附属看護学校 事務長
長島愛生園附属看護学校 教育主事
長島愛生園附属看護学校 実習調整者
長島愛生園附属看護学校 教官(1年生担任)
長島愛生園附属看護学校 教官(2年生担任)

4. 評価内容

令和6年度 学校の教育活動および学校運営に対する実施状況

5. 評価資料

1) 書類審査

(1) 教育活動に関する事項

- ①各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)
- ②学生の学習支援に関する事項(各学年年間計画、国家試験対策)

2) 学校運営に関する事項

- (1) 自己点検・自己評価の結果(令和6年度自己評価、自己点検結果)
- (2) 学生カリキュラム評価(令和6年度卒業生・1年生)

II. 学校関係者評価会議評価委員による主な意見、課題

1. 教育活動に関する事項

1) 各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)

全体的に特に問題なく整えられている。

2) 学生の学修支援に関する事項(各学年計画、国家試験対策、技術演習)

教育目標に基づいた綿密な指導計画が作成されており、学生が少ないことを活かし個に応じた対応をされている。カリキュラム評価でも教職員は学生に耳を傾けてくれている近づきやすい存在であると学生が認識している。

日出茶屋や園内餅つき大会などへの参加は、教育目標を具現化する意義ある取り組みである。

各学年、改善を求めるコメントが見受けられる。次年度の指導の改善に活かす必要がある。

2. 学校運営に関する事項

1) 自己評価・自己点検結果について（令和6年度自己評価・自己点検の結果）

「教育理念・教育目的・教育目標」の項目が昨年度より上昇しているのは良いことである。

「Ⅱ. 教育課程経営」について、臨地実習指導における協働体制と安全教育・安全対策の項目が低下している。要因としては学校側の調整不足が挙げられる。臨地実習において学生が困っていることなどをタイムリーに把握して、実習指導者と密にコミュニケーションをとり、臨地実習における学習効果を高めていく必要がある。

「Ⅳ. 経営・管理過程」については、施設設備の整備に関する項目が低下している。施設設備の整備には予算が伴うが、学生の学習環境として必要なものは整えていく必要がある。

「Ⅵ. 卒業・就職・進学」の項目が低下している。卒業後の状況を長期的に把握することは難しい。また、卒業後、シラバス等で示している期待される卒業生像としての評価などはできていない。国家試験対策についても、学生のカリキュラム評価にあるように、今年度は学生のニーズに沿った国家試験対策ではなかったため評価が低下している。卒業生の状況を把握し続けることは難しいが、実習施設等に就職した学生の状況をできる限り把握すること、国家試験対策については、学生の学習状況等を分析し、学生のニーズや個人の理解度等に合わせた方法で国家試験対策に取り組む必要がある。

「Ⅷ. 研究」では今年度は、看護研究の実施や学会発表、誌上発表をしていないため評価が下がっている。

2) 1年生カリキュラム評価（令和6年度1年次カリキュラム評価結果）

1年生はほとんどの項目が4.0だが、国家試験対策の項目17「国家試験に向けた対策について」の「1）模擬試験の時期・回数・内容に満足している」が2.0であった。学生からは模擬試験の回数を増やしてほしいという意見があったため、次年度は早期に計画を立てて、1年次から国家試験対策に取り組んでいく。

3) 卒業生カリキュラム評価（令和6年度卒業生カリキュラム評価結果）

卒業生についても項目17「国家試験に向けた対策について」の「4）1月・2月の学内学習の内容に満足している」が2.6であり、学生のコメントにも「補講をもっと増やしてほしい」「取り組みが遅い」などの意見があった。また教官に対して「分からないなど、学生の不安をあおるような発言をしないほしい」と、取り組みだけでなく、学生に対する教官の関わりについても意見があった。今年度は国家試験対策の計画が遅くなったことが要因であるため、次年度は早期に計画を立案し取り組んでいく。また、教官の関わりについても今回の意見を共有し、適切に対応できるようにしていく必要がある。

【取り組む課題】

1. 臨地実習指導や国家試験対策における指導について、教官の経験状況を考慮して、教官同士が相互に支援し合いながら教育実践能力を高めるよう努める。臨地実習においては、実習指導者と密にコミュニケーションをとり、臨床側と学校側の意図や思い、互いに捉えている学生の状況等を共有して指導していく。
2. 必要な学習環境の整備ができるよう、学生の意見を取り入れながら対応していく。また教材・教具については定期的に点検し、学習に支障が発生しないようにする。
3. 学生個々の状況を把握し、学生の個性に応じたきめ細やかな支援を継続していく。